

長野工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	施工特論
科目基礎情報						
科目番号	0044		科目区分		専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科	環境都市工学科		対象学年		4	
開設期	後期		週時間数		2	
教科書/教材	教科書：友久誠司 他 『環境・都市システム系 教科書シリーズ10 施工管理学』（コロナ社）教科書：赤木知之，他著「土質工学」コロナ社参考書：地域開発研究所 『土木施工管理技術テキスト 土木一般編』参考書：友久誠司 他					
担当教員	古本 吉倫					
到達目標						
土木施工および施工管理に関する基礎知識とその応用を説明できる。土工（盛土，切土，斜面安定）に関する理論とその応用を説明できる。コンクリート工およびトンネル工に関する理論とその応用を説明できる。これらの内容を満足することで学習教育目標の（D-1）および（D2）の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
土木施工および施工管理	土木施工および施工管理に関する基礎知識とその応用を説明できる。		土木施工および施工管理に関する基礎知識を説明できる。		土木施工および施工管理に関する基礎知識を説明できない。	
土工（盛土，切土，斜面安定）	土工（盛土，切土，斜面安定）に関する理論とその応用を説明できる。		土工（盛土，切土，斜面安定）に関する理論を説明できる。		土工（盛土，切土，斜面安定）に関する理論を説明できない。	
コンクリート工およびトンネル工	コンクリート工およびトンネル工に関する理論とその応用を説明できる。		コンクリート工およびトンネル工に関する理論を説明できる。		コンクリート工およびトンネル工に関する理論を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
D D-1 D D-2						
教育方法等						
概要	建設基幹材料に関する知識が必要である。特に土質工学に関する基礎的な理解が得られていることが前提となる。各回の授業をとおり，3年生までに修得した工学的知識と施工（実務）との関連性を確認していく。					
授業の進め方・方法	授業は講義を中心とし，適宜，演習問題を課す。					
注意点	<成績評価> 期末試験等で学習教育目標の（D-1）および（D-2）を評価し，6割以上を獲得したものを本科目の合格者とする。 <オフィスアワー> 毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科棟3F 310教員室 <先修科目・後修科目> 先修科目：土質工学II					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
後期	3rdQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	施工管理（1）		施工管理について説明できる。	
		2週	施工管理（2）		工程管理について説明できる。	
		3週	施工管理（3）		品質管理について説明できる。	
		4週	施工管理（4）		原価管理について説明できる。	
		5週	施工管理（5）		安全衛生管理について説明できる。	
		6週	理解度の確認（施工管理）			
		7週	コンクリート工の目的		コンクリート工の目的を説明できる。	
	8週	コンクリート構造物の耐久性と施工		コンクリート構造物の耐久性を施工の観点から説明できる。		
	4thQ	9週	コンクリート構造物の維持管理・補強法（1）		コンクリート構造物の維持管理を説明できる。	
		10週	コンクリート構造物の維持管理・補強法（2）		コンクリート構造物の補強法を説明できる。	
		11週	コンクリート構造物の型枠・支保工		コンクリート構造物の型枠・支保工の安全性照査ができる。	
		12週	理解度の確認（コンクリート工）			
		13週	建設機械		建設機械の種類を理解し，各種機械の概要を説明できる。	
		14週	トンネル工（1）		NATMとシールド工法の違いを理解し，ロックボルト，吹付コンクリートの施工法の概要を説明できる。	
		15週	トンネル工（2）		補助工法の目的と種類を説明できる。	
16週		達成度試験（建設機械・トンネル工）				
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100